

発達障害の理解と支援



鳥取県立精神保健福祉センター

令和7年9月8日

ひきこもり支援において、 なぜ、発達障害を学ぶのか

- 1 ひきこもり者（特に、長期のひきこもり者）の中には、発達障害者（その傾向を有する者を含む）が少なくないことは、現場で支援をしている多くの人が感じていることです。
- 2 ここで重要なことは、ひきこもり者に発達障害の特性が認められたから
といって、急いで診断を求めたり、医療機関への受診を促すことではあ
りません。
- 3 まずは、ひきこもり者の安心・安全を保障し、良好な関係を持つことが重要です。
- 4 しかし、発達障害者が持つ特性、生きづらさを十分に理解をしておかないと、支援者が良かれと思って行った言動が、発達障害を有するひきこ
もり者に、より強い不安や恐怖感を与えてしまうことがあります。
- 5 そのためにも、支援者が発達障害について、知っておくことは重要です
- 6 なお、発達障害そのものがひきこもりの原因となっているのではなく、多くの場合は、ひきこもりに至るまでの生活や経験の中での不安・恐怖体験、二次障害（発達障害の特性が十分に理解されていない背景もある）が、ひきこもりの誘因となっています。

障害のタイプ

障害には、先天的と後天的と、2つのパターンがあります。

先天的
障害

もともと 障害 がある

中途障害
(後天的)

病気
けが

固定

障害
(後遺症)

もともとは、病気も
障害も認めない。

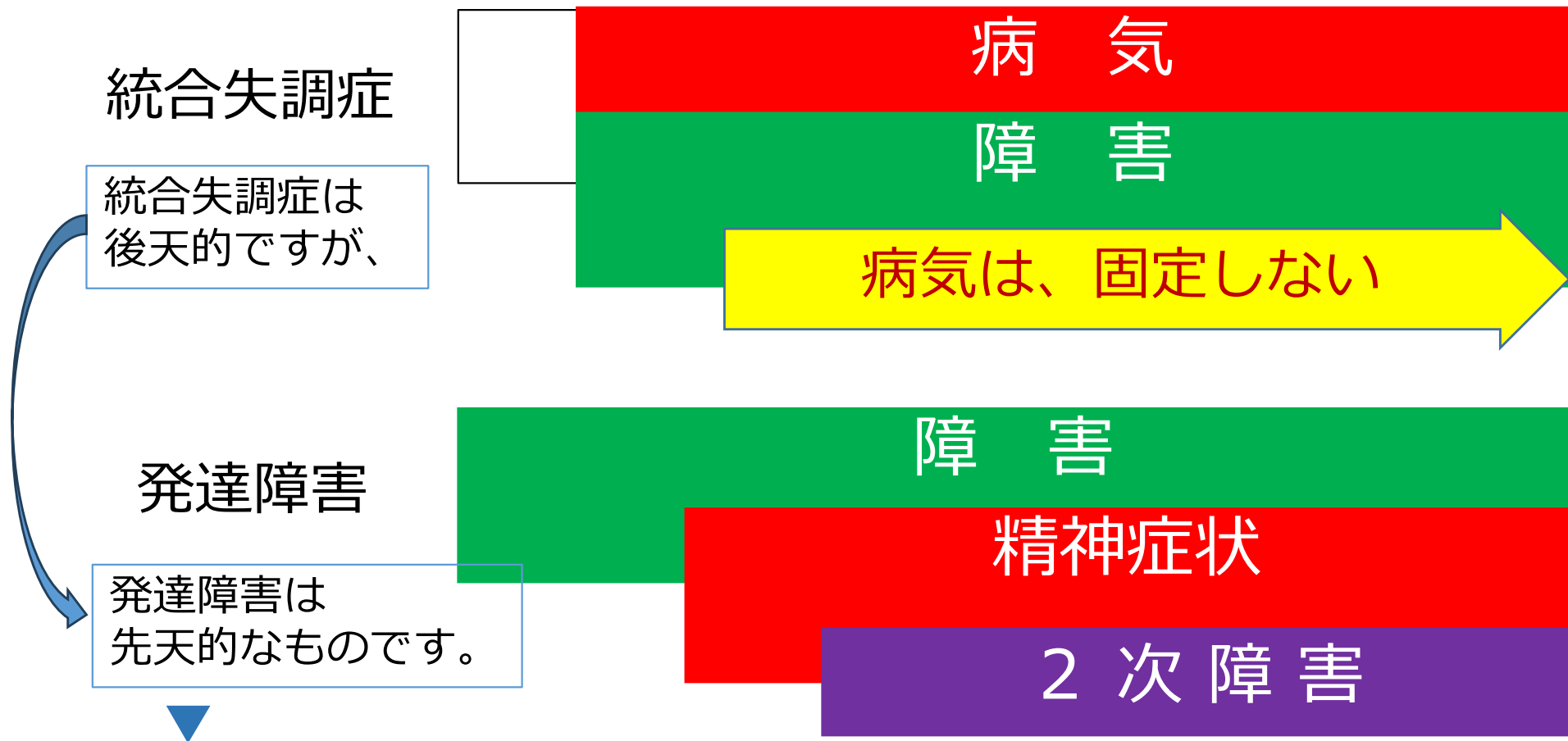
治療

福祉サービス

固定

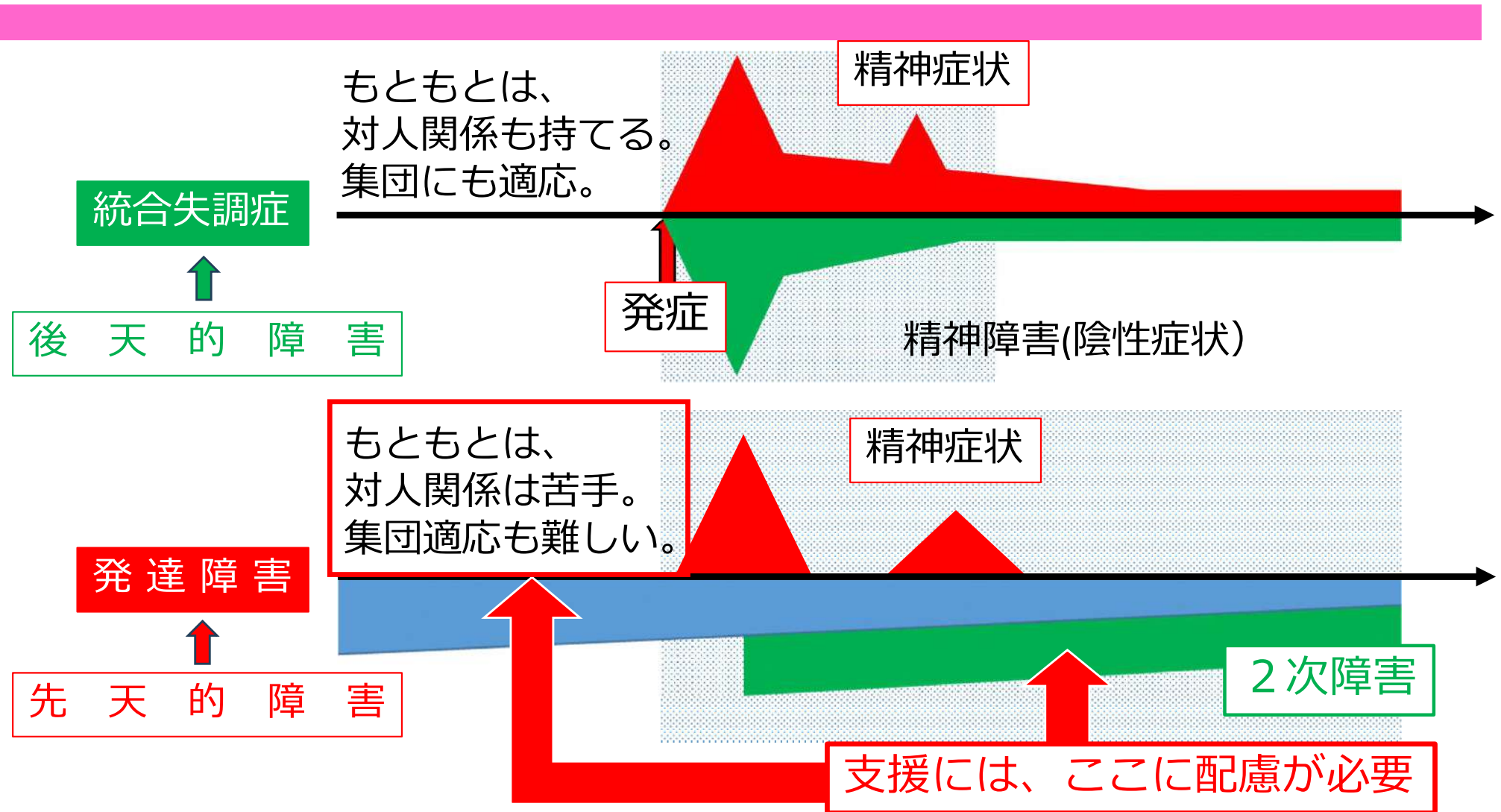
これ以上、治療しても良くなならない、
けれども、悪くもならない状態。

統合失調症と発達障害の比較



※ 一方で、発達障害は、先天的障害ですが、不適応などが表面化して初めて診断されることも少なくありません。

統合失調症と発達障害



日本の「精神障害」支援のモデルは、統合失調症。
発達障害者には、必ずしも、適切でないことがある。

発達障害の定義（発達障害者支援法）

平成16年12月成立・公布、平成28年6月改正

「発達障害」とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するものとして政令で定めるものをいう。

「発達障害者」とは、発達障害がある者であって発達障害及び社会的障壁により日常生活又は社会生活に制限を受けるものをいい、「発達障害児」とは、発達障害者のうち十八歳未満のものをいう。

生まれもつての特性（脳機能の障害）を有し、それによって日常生活にさまざまな生きづらさが生じている。それを治療する、克服することは難しいが、周囲（あるいは本人）がそれを理解していく中で、本人が、より安心した日常生活を送れることが目標となる。



発達障害【ICD-11：神経発達症】の分類

注意欠陥多動性障害（A D／H D） 【ICD-11：注意欠如多動症】

①多動性 ②不注意 ③衝動性

学習障害（L D） 【ICD-11：発達性学習症】

聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する能力の一部だけの著しい遅れ

自閉スペクトラム症（A S D）

これまで、広汎性発達障害、アスペルガー症候群（障害）など

知的能力障害

協調運動障害

チック症

吃音

小学校低学年では、L D、A D／H Dと診断されていても、学年が上がるにつれ、強迫症状等が表面化し、A S Dと診断されることは、珍しくない。

発達障害の診断は？

発達障害の診断は、総合的な判断で

明確に診断できる検査などは、存在しない。

「診断をつけてもらってきなさい」「検査してきてもらってきなさい」

・・・は、相談・医療機関としては、困ることも。

生育歴や家庭・学校・職場での状況など

現病歴、既往歴

2次障害の有無も重要

(虐待、いじめ、パワーハラスメントなど)

検査：あくまでも参考、傾向を知る

スクリーニング検査：

AQ（自閉スペクトラム指数）・A-ADHD

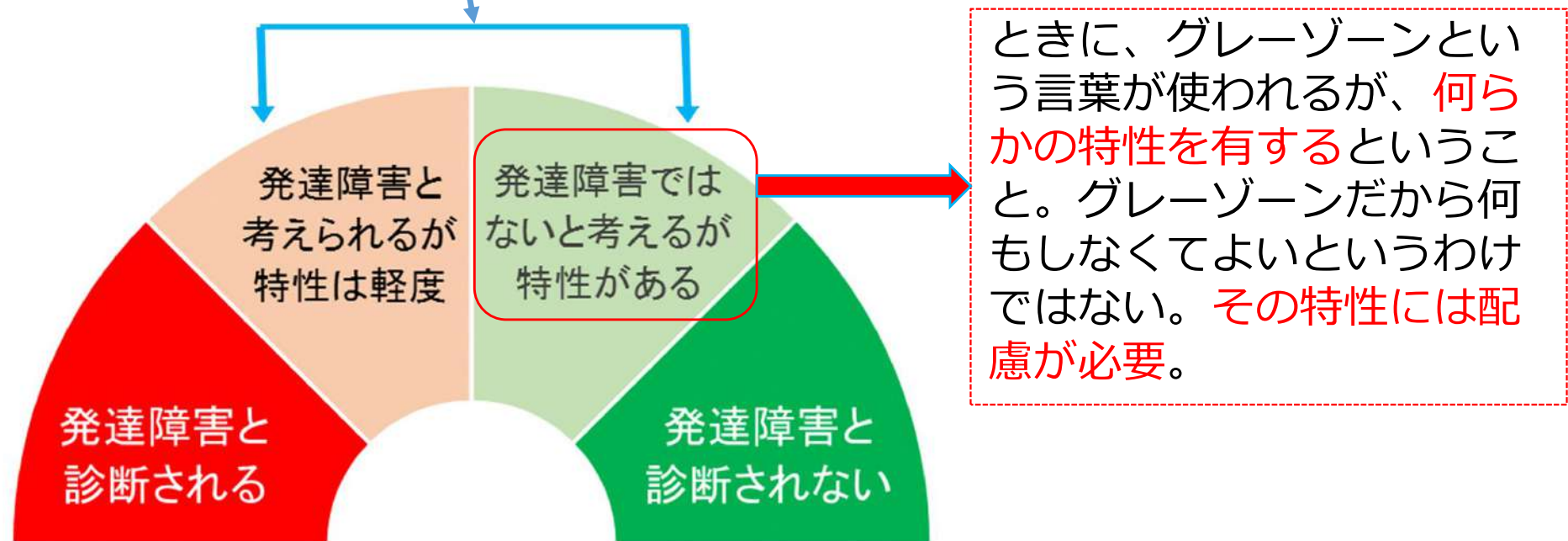
知能検査：WISC・WAIS（ウェクスラー式知能検査）

発達障害 Q：受診について

- ・ 本人が受診を望んでいない状態では、積極的な受診は勧めない。
- ・ 医師によって、発達障害の理解は様々。
- ・ すべての発達障害者が、積極的な精神科受診を必要としているわけではない。精神科受診を進める理由は？ 診断？ 精神科治療？（医療機関では、発達障害そのものは治療の対象ではなく、多くの場合は、随伴する症状への治療が中心。不安・抑うつ、ADHD特性など）
 - ・ **診断が明確でなくても、その傾向があると思えば、関わり方は、発達障害者として関わる方が間違いはない。**
 - ・ **「グレーゾーン」は、何らかの特性があるということ。その特性に対する理解、配慮が必要。**
- ・ 発達障害者への関わりは、本人のペースを守る。本人の望まないこと、拒否していることはしない。（無理矢理、精神科を受診させても効果はないどころか、拒否・攻撃性が高まることも）
- ・ 本人に、急いで自身の障害の告知、理解を求めない。いずれ、自身で理解していく。（個人差はあるが）

成人の発達障害者の診断の困難さ 1

この領域は、医師によっても、診断等の判断が異なるのが現状である。しかし、この領域の事例の方が、時に、周囲の理解等を得ることが難しく、2次障害を有し、問題が長期化することが少なくない。



家族も、「他の人とは少し違っている」
「何かの配慮が必要」と感じる一方で、
「障害である」とは、直ぐには認めたくない気持ち。

成人の発達障害者の診断の困難さ 2

発達障害者が精神的に不安定な時は、

- 「ストレスとなるもの、不要な刺激を取り除く。
- 「本人のペースを守った生活を保証する。

が、原則。（ときに、向精神薬も使用）

このような安心・安全の環境にいると、

2－3年で、精神症状が安定し、特性も、それ程目立たなくなることは、よくあることである。

しかし、これは、

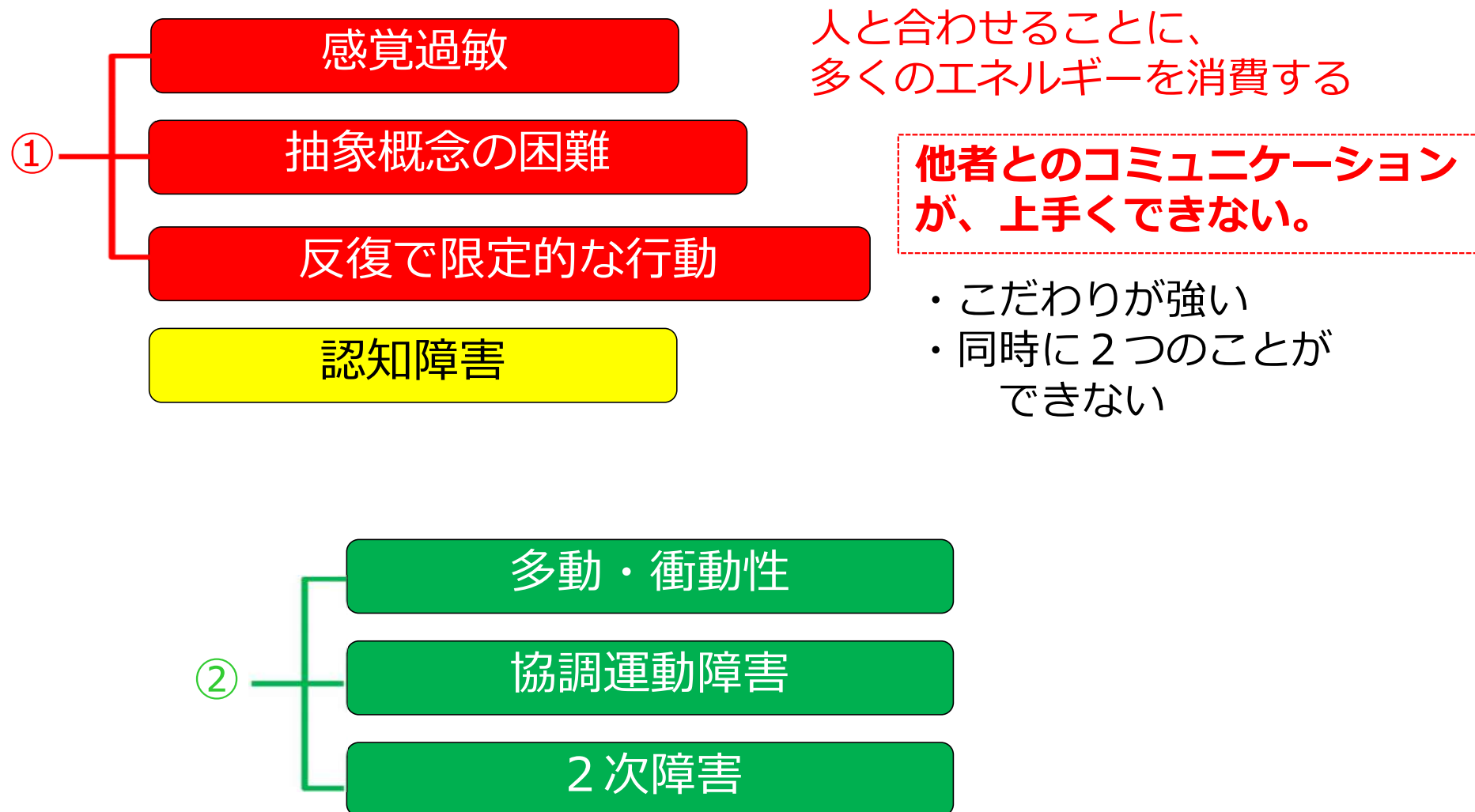
- ・ 病気が治ったわけでもなく（もともと障害）、
- ・ 発達障害の診断が、誤診だったわけではない。

表面的に安定していても、背景に、特性、生きづらさがあることを忘れてはいけない。

安定には、年単位を要することも

本来の状態に戻った

自閉スペクトラム症の症状



発達障害のひとは、周囲に合わせるのに、
多くのエネルギーを使っている。

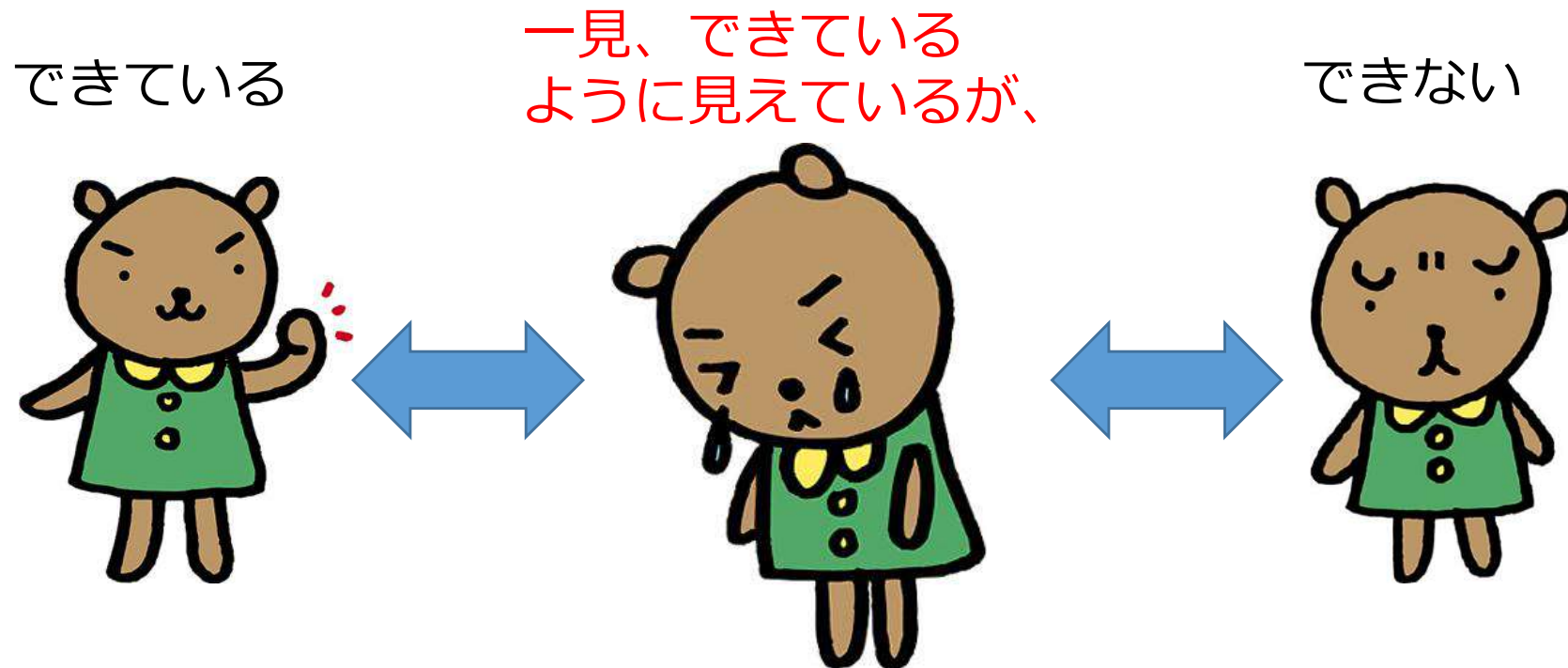


周囲に合わせるのに、人一倍、
強いエネルギーを使う

※認知の障害が強い場合は、少し様子が異なる。

- ・ 見かけ上は、それ程、気を使っているように見えないことも
- ・ 小学校時代からの友だちは、分かっているので大丈夫
- ・ 高校・大学・職場など、新しい集団には強いエネルギーがいる
- ・ 自分がリーダーのときは、意外と大丈夫

一見、仕事ができているように見えても。



実は、人の10倍、エネルギーを使っている。
強い疲労を感じているが、一見、できているので、
周囲からの理解を得ることがむずかしい。

Nさん（20代男性）

Xさんは、システムエンジニアとして就職しましたが、半月前から抑うつ症状を認め、「適応障害」の診断で休養、治療を受けています。治療により抑うつ症状は改善しました。しかし、もともと対人緊張が高く、人づきあいへの疲弊感が非常に強く、復職への不安が強くあります。過去の成育歴もふまえ、Xさんは、自閉スペクトラム症の診断がなされました。復職に関しては、集団への疲弊感が人一倍高く、2日間仕事にでると疲労感が厳しいため、本人の希望も得て、月、火曜日出勤の後、水曜日は休み、木、金曜日出勤のスケジュールにしました。水曜日は、一日ごろごろした生活を送っていますが、このごろごろが良いクールダウンとなっていて、今は安定して仕事を継続しています。

エネルギーの消費と蓄積のバランス 1

学校・会社では、
人に精一杯合わせる。
エネルギーの消費
※これ以上厳しくなると限界

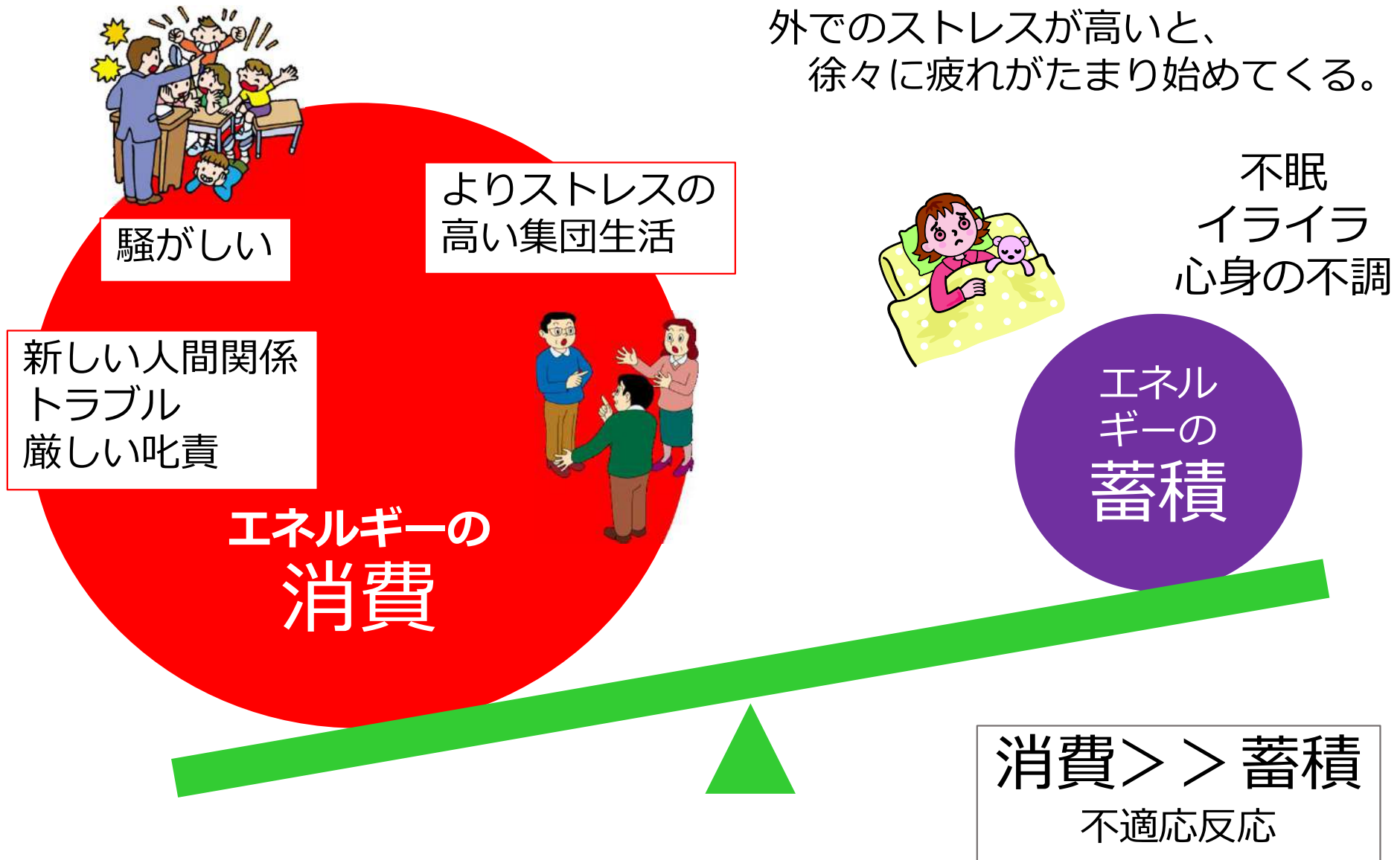


自宅では、のんびりとした生活
(クールダウン)
※この時間が奪われるのはつらい

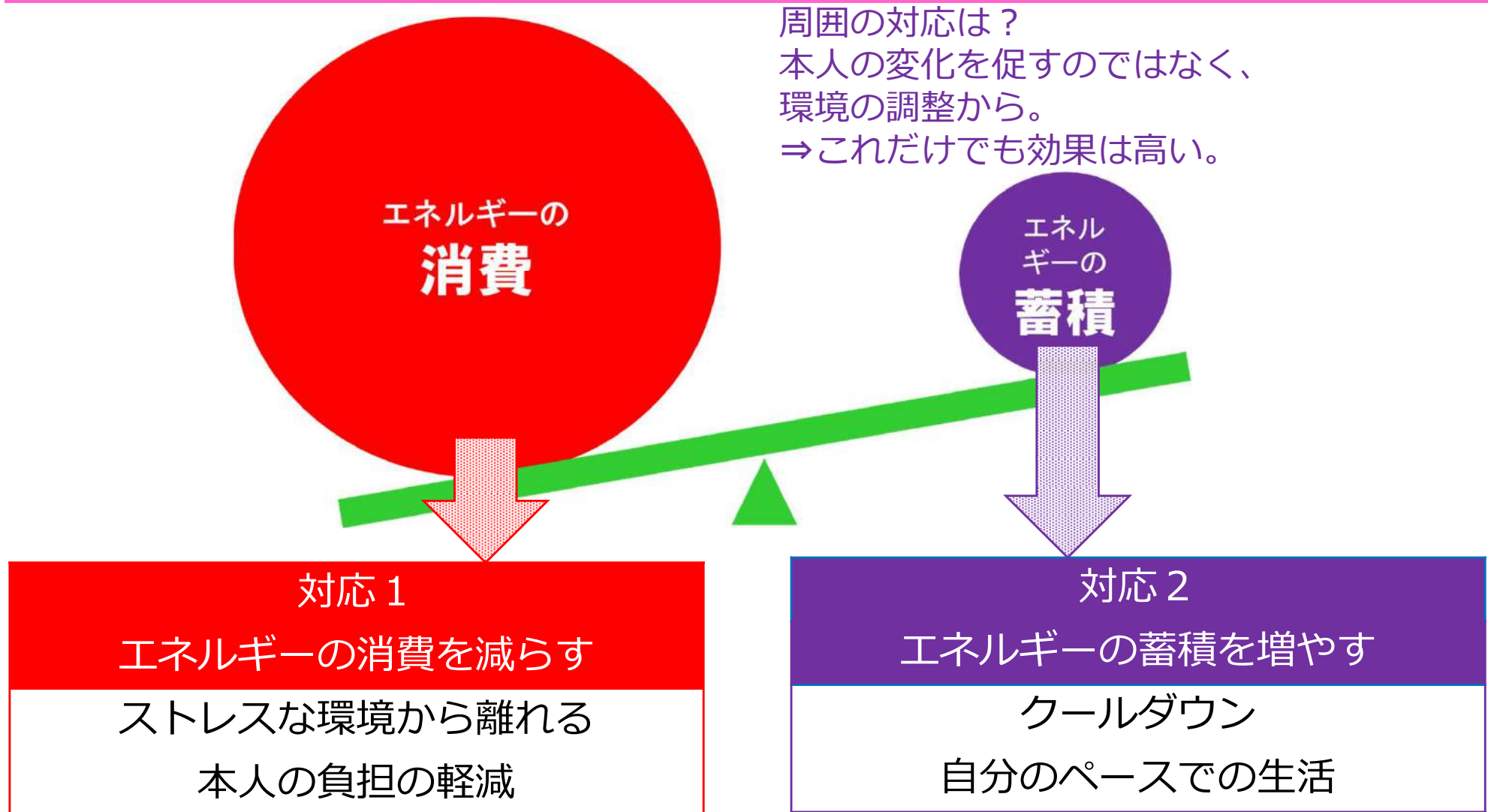


消費 < = 蓄積
バランスを保っている

エネルギーの消費と蓄積のバランス 2



エネルギーの消費と蓄積のバランス 3



一時的には、不登校・ひきこもりになることも効果的

まずは、できる対応から

1 ストレスになっているものを取り除く

他の人にとっては、さほどストレスと感じないものでは、発達障害特性からみて、非常にストレスと感じられることもある。

※ もっとも、ストレスとなるものは、人間関係。

2 余分な刺激は極力避ける。

周囲が良かれと思って行った情報提供やアドバイスが、本人の混乱を招くことになる。

3 自分のペースでの生活を保障する。

多くの場合、周囲に合わせることに強いエネルギーを使い疲弊している。その逆のパターンで。周囲の人からはわがままにさせているとみられることもあり、周囲の理解も必要。

4 クールダウンができるように。

本人にとって、クールダウンの方法はさまざま。本人なりのクールダウンを学ぶ。

Mさん（20代女性）－1／8

両親と3人暮らし（県外に姉がいる）。幼少期の頃から、大人しく人前に出ることを嫌う。小学校入学後も、集団適応に時間を要し、初めてのことに不安が強い。自分なりのこだわりがあり、マイペース。そのことで同級生から孤立していた。遊具で遊ぶときは、何度も練習をし、自分で納得しなければ人前ではしない。やってみてできないことは、今後一生しないというくらい極端だった。

Mさん（20代女性）－2／8

中学の時、成績は普通。運動は動きが鈍く苦手だったが、姉がいるバスケット部に入部。3年の時、監督の配慮で、最後の大会は全員を出場させるという話があると、強く拒否し退部。高校では友人はできず図書館で過ごした。身なりを構わず、家族の古着を着たり、下着などはボロボロに破れるまで着用。新しい服に手を通すことが、肌触りが気持ち悪くて嫌と言う。

Mさん（20代女性）－3／8

高校卒業後、縫製工場に就職するも不器用で辞職。スーパーで品出し作業をするも、同年代の従業員が苦手で辞職。その後も10社近く転職するも、仕事が難しくてできない、コミュニケーションがうまくできない、人間関係のトラブルがあったなどで短期間で退職を繰り返す。一方で、無職になると、仕事をしない自分が許せないと、髪の毛をむしり取るなどの自傷行為がみられていた。

Mさん（20代女性）－4／8

3年前からビルの清掃業に就く。JR通勤では、朝の通学ラッシュを嫌い、学生が乗車する駅でいったん下車し、学生が利用しない時間帯まで待ち、再度乗車する。帰宅後は決まって不機嫌。食器の並べ方や母の手料理が気に入らず、母が作った自分の分の料理を捨て、インスタント食品を食べる。洗濯の手順にこだわり、洗濯は夜間にする決めて、家族が良かれと思い先にやると激怒する。

Mさん（20代女性）－5／8

リビングのソファ（自分の定位置）に母が座ると、母のぬくもりが気に入らないと部屋中の窓を開けて空気を入れ替え、リビングの物を壊し、母に物を投げつける。母が、年齢相応の社会生活を強要するとひどく反発。母との会話は拒否するが、父には自分から、その日の出来事を笑顔で話す。仕事には真面目に行き、外でトラブルを起こすことは一切ないが、家庭内では暴言や攻撃を向けてくる。

Mさん（20代女性）－6／8

母は不眠などで心療内科に通院。当センターに父母が相談来所となる。父母には、「本人は、自分なりに仕事を頑張っている。もともと人に合わせる事が苦手、自分のペースで取り組むタイプ。職場での対人関係での緊張感やストレスを家に持ち帰り発散している。親の願いもあると思うが、本人が望まないことを周囲が強要しても反発につながる。自宅では自分のペースを守って」と伝える。

Mさん（20代女性）－ 7 / 8

月1回の来所家族面接。母自身が自分の関わりを振り返る。親の価値観に本人を当てはめようと感情的に責めていた、本人の生活に対して指示的な声かけしかしてこなかったと。今は、本人がやりたいようにやらせてみながら、本人と良好な関係の父が、本人の話を聞きながら様子を見ていきたいと。

Mさん（20代女性）－ 8 / 8

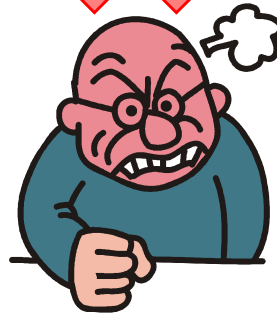
来所3か月後、帰宅後の暴言、こだわり等が少なくなり、母の声かけに答え、父母との外食や買い物など自分から望むようになった。8か月後、家族を思いやる言葉もみられ、母と2人で県外の姉宅に旅行に行き、父母の誕生日にプレゼントを贈る。イライラしたときは、いったん自室にこもりクールダウンすることもできるようになった。1年4か月で、本人、母も安定し、相談も終了した。

本人だけでなく、周囲へのアプローチも！

騒がしい



激しい叱責



理解できない会話



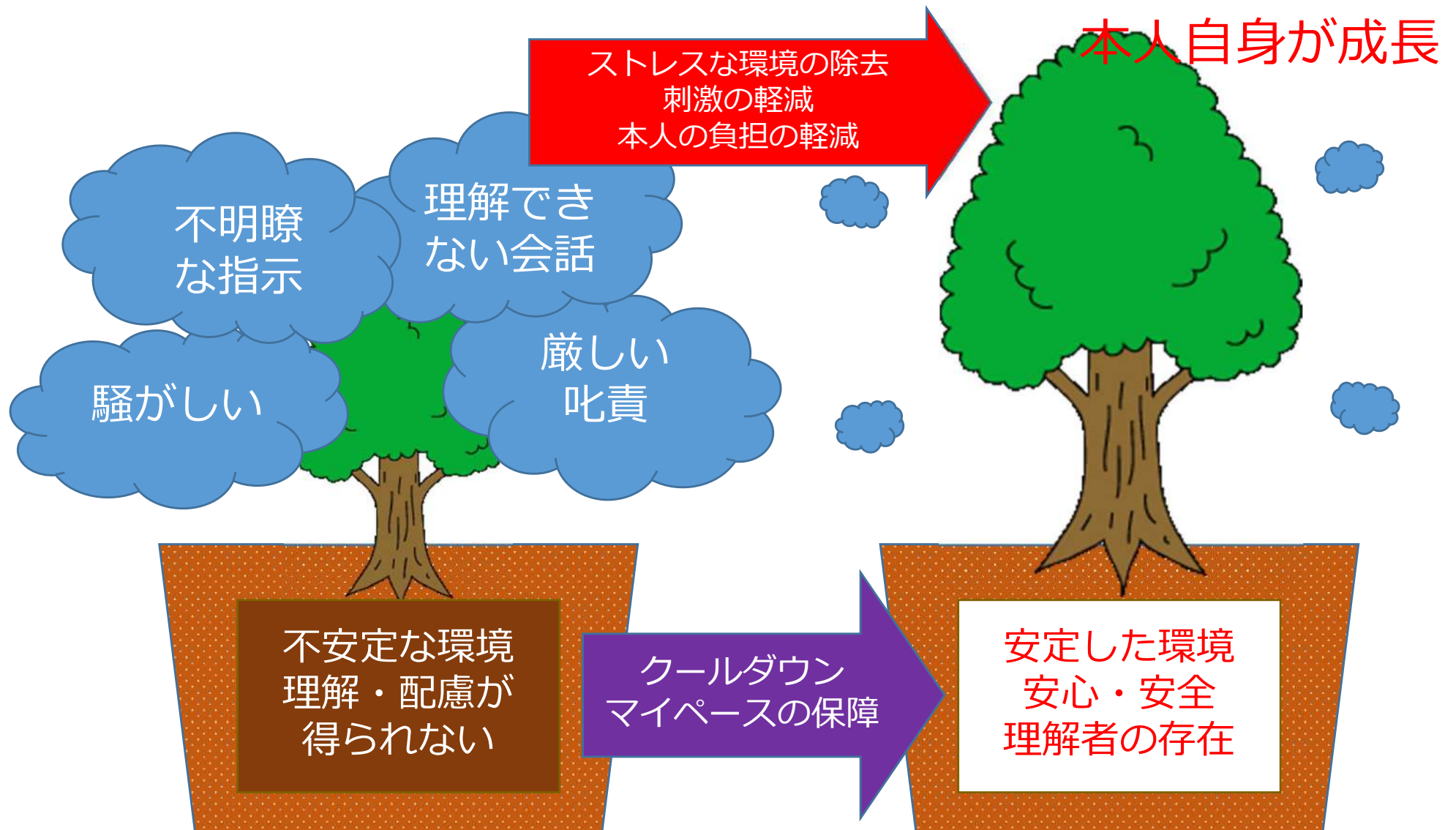
さまざまなストレスへの対処は、
本人の努力だけではむずかしい。

不明瞭な指示



まだまだ、社会の発達障害に対する理解は不十分。そのため、本人へのアプローチだけでなく、家族や周囲の人々、社会への働きかけが、現状では不可欠。

まずは、できる対応から 2



本人を変えることは難しい

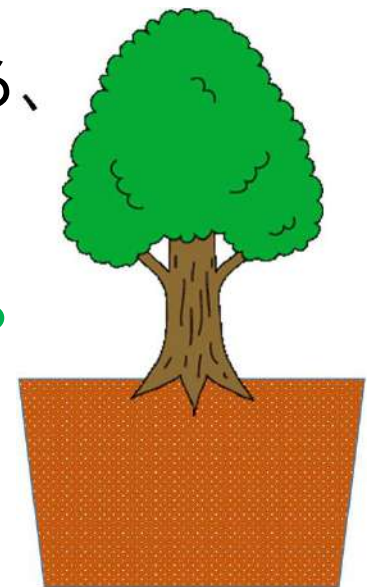
周囲の力で本人を変えることは難しい。

「（社会適応ができるように）訓練してきてもらいなさい」
・・・は、相談・医療機関としては困る。

本人を変えようという働きかけは上手くいかない。

まずは、環境調整から。

一方で、安心・安全な環境、周囲の理解などから、
本人が成長していくことは、
珍しくない。



自閉スペクトラム症の症状①－ 1

1 感覚過敏

感覚過敏は、ストレスが高くなると、より過敏性が高まり、悪循環にはいつてくる。

聴覚過敏

音がよく聞こえる

音の選択ができない

記憶がよい（理解は？）

視覚過敏

記憶・理解がよい

時に視線恐怖など

嗅覚・味覚・触覚など

- ・騒がしいところが苦痛
- ・特定の音が苦手
高い音・叱る声
恐怖感や嫌悪感を
抱いている人の声や音に
過敏になる。



タイムスリップ

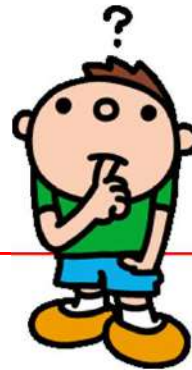
成人の場合

騒がしい所は、できるだけ避ける。
厳しい叱責などをしない。

自閉スペクトラム症の症状①－ 2

2 抽象概念の困難

代名詞（あれ、これ、それ）が苦手
ことばの省略が分からない
曖昧な表現が苦手
（だいたい、ほどほど）



- ・ 代名詞（あれ、これ、それ）
- ・ 形容詞（きれい、かわいい）
- ・ あいまいな表現（適当に）
などが、理解できない。

本人の反応→

視線が合わない
目が泳いでいる
固まっている
フンフン言うだけ

成人の場合

具体的に、丁寧な指示を行う。指示を行う人は、できる限り特定の人の方が良い。

仕事の内容を、表示（絵や写真がある方が分かりやすい）しておき、新しい仕事については、一緒にするところから始める。

声かけについて (声かけの3原則)

声かけの3原則は、具体的に、丁寧に、穏やかに、伝えること。

主語、述語を明確にして、具体的に話す。

フレンドリーな話しかけは、当初は、禁忌。

本人は、**自分の領域をガード**している。

不用意に、自分の領域に入ってきて来ないか不安が強い。

フレンドリーな話は、心理的距離感が近すぎる。

必要以上に、自分の領域に入ってきて来ないという安心感を。

「上から目線」と感じられる話し方には拒否的。

自分の意見を否定するような話し方にも拒否的。

怒っている、叱っているような言い方には不安を抱く。

まずは、自分の意見をコメントなしで、じっくりと聞いて欲しい。

早急なコメントは、自分の意見の否定とを感じる。

怒鳴り声、他者への叱責も恐怖になる。

突発的に起きることへの不安。

自分も叱られるのではという恐怖。

声かけについて 補足 1

多くの人は、1点集中タイプなので、同時に複数の指示が入ると、混乱する。

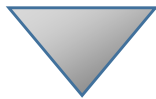
そのため、指示は、**現在、求められるもの一つに絞り**、その時点で必要性の少ない過去や未来の話は、避けることとする。

一方で、本人は、自分の関心のあること、気になることに対して、1点集中していることもあり、周囲が、1つの指示を行ったとしても、**本人の中で現在集中している課題が解決しないと、次に進めない**こともある。

また、自分の関心のあること、したいことに関しては、自主的に物事を勧めたり、積極的に強い関心を持つ。やがて、これは経験値となつて、本人の成長につながる。

一方で、自分が関心のないこと、苦手なことをさせたとしても、残念ながら、経験値につながらないことも少なくなく、学習効果は少ない。

声かけについて 補足 2



本人が「やりたくない」と思ったこと
「やらされている」と感じたことは

物事への関心がなく、
行動にも積極的でない。
その結果嫌悪感が強く、
経験として生きない。

本人が「やりたい」と思ったことは

新しい事にも関心を持ち、
自発的に行動ができる。
その結果、いろいろな経験を重ね、
自信にもつながっていく。

本人の望まないことをしても、効果はない。

人間関係のトラブルについて

発達障害者にとって、
もっとも大きなストレスとなるのは、**人間関係**。
本人が不快、不安に思う人間関係からは、
出来る限り、解放する（引き離す）ことが重要。
視覚優位なので、物理的に、不快な人間関係からは
距離を開ける（視界から消える）ことが重要。
長期に不快、不安な人間関係にさらされ続ける
ことにより、より特性が高まり、
イライラ、焦燥、易刺激、攻撃性も高まってくる。
並行して、クールダウンできることが望ましい。
クールダウンの方法は、様々。
一人になる、好きなことに没頭する、
自分の話をじっくりと聞いてもらう・・・など。

過去の出来事にこだわる (1)

時に、過去の嫌だった体験を繰り返し語ることがあります。

「過ぎてしまった昔のことは忘れて、前を向こう」と言われても、なかなか、忘れることができません。

それは、発達障害の人の中には、

自分の好きなことや、逆に、嫌だった出来事を、詳細に覚え、

それを忘れることができない人が少なくありません。

多くの人が、喧嘩しても、嫌なことがあっても、頑張れるのは、

月日の経過とともに、「忘却」ができるからです。

しかし、発達障害の人は、「忘却」ができず、何年も前の出来事を、つい昨日の出来事のように、語ることがあります。

発達障害の人には、「視覚的記憶」を持つ人が多く、

単に覚えているというのではなく、よりリアルに、

その時、誰が何と言ったのか、その時の情景や、

表情、そして、その時の不快な感情も覚えています。

あたかもその時に戻ったかのように、タイムスリップします。

過去の出来事にこだわる (2)

ただ、その記憶は必ずしも正確ではありません。

何度もタイムスリップを繰り返すと、嫌な記憶は、

より悪い方に装飾されて、現実よりもより悪い記憶になっているときがあります。しかし、家族がそれを、「あなたの思い違い」と指摘しても納得はしません。本人はそのように記憶しているので、訂正は効きません。

では、その嫌な語りはずっと続くのでしょうか？

多くの場合、嫌な記憶を本人が語るときは、

過去だけではなく、現在もつらいときです。

現在がつらいと、過去の嫌な出来事がフラッシュバックします。

本人が、過去の嫌な記憶をつらそうに、厳しく語るときは、

今、生きている社会が、つらいのだと思ってください。

そして、現在あるストレスを減らす、環境を改善することを

考えましょう。現在のストレスが、改善してくると、徐々に、

過去のつらい話をすることは減ってきます。

過去の出来事にこだわる (3)

このような忘却できない「記憶」は、日常生活の大きな障害になります。例えば、・・・

職場の上司から厳しく叱られ続けると、視覚的にその上司の怒りが記憶され、その上司に近づけなくなる⇒上司のいる部屋に行けなくなる⇒上司のいる会社（上司がいるいないにかかわらず）に行けなくなる、ということが起きてきます。

会社には恐怖で行けませんが、上司と関係のない遊び（旅行とかスポーツとか）は、普通通りに行けます。周囲はこれを不思議に感じ、「新型うつ」などと言うこともあります。

これを避けるためには、「できるだけ、本人にとって不快な出来事はさける」こと、そして仮に、そのような出来事があった時は、早めに環境調整をするだけでなく、本人自身がクールダウンを行うことが重要です。ちなみに、中学校が嫌だった子で、卒業式の日、卒業アルバム、教科書全て捨てた子が数人います。嫌な思い出は物理的に消去する、これもクールダウンの一つと考えられます。

自閉スペクトラム症の症状①－ 3

3 反復的で限定的な言動

興味の集中

一方的な講釈

こだわり（手順、道順、趣味）

不潔恐怖

同時に2つのことができない

思春期になると、
自分が**嫌悪感を抱いている人やもの**
に対して、不潔恐怖 を抱く。

自分のこだわっているものには、
「がんこ」で 修正がむずかしい。
第一印象の影響を受けやすい。

自分の意見を否定される＝人格を否定されたと感じる→関係が切れる

成人の場合

仕事に集中ができるように、余分な刺激になるような会話やものは避けることが望ましい。事前にスケジュールは提示し、予定外のことが起きることを避ける。指示は、一つに集中し、一つのことが終わってから、次の仕事に移れるようにする。

こだわり

こだわりは、中心的な症状。
自分のこだわっているものには、
「がんこ」で 修正するのもむずかしい。
ストレスが高まると、こだわりも高まり、
こだわりが高まると、ストレスも高まるという、
悪循環に入っていく。
その上、同時に2つのことを実行することが難しく、
こだわりにとらわれていると、
それ以外のことに、集中できない。

【対応】

こだわりそのものを、軽減することは難しい。
こだわりを、一方的に我慢するのも難しい。
本人なりに、納得のいける手段を考える。
あるいは、ストレスな環境を、軽減する。
ストレスな環境から、離れる。

自閉スペクトラム症の症状②－ 1



+ AD/HD

多動・衝動性

不注意

自閉スペクトラム症の人の中にも、

- ・ とても几帳面で整理整頓ができる人
- ・ ADHD系で全然片付けができない人
- ・ ある部分のみ几帳面、それ以外は無関心な人

がいる。

実際には、自閉スペクトラム症か、ADHDか、明確に診断のつきにくい人もいるが、

ADHDと自閉スペクトラム症の症状が並行して見られる場合は、

「ADHDを伴う自閉スペクトラム症」としている。

成人の場合

なかなか仕事が始始できない、仕事が効率よくこなせない、仕事の見通しが立てられない、仕事が滞ってしまう等が起きることがある。



定期的に、仕事をチェックしたり、個別に面談を入れたりする。

自閉スペクトラム症の症状②－ 2



協調運動障害 (粗大・微細)

- ・スポーツが苦手
- ・不器用で細かいことができない

蝶々結びができない

自転車・はさみ・縄
跳びなどが苦手

自転車は、乗れるようになるには時間がかかるが、一度、乗り出すと、よく使われる人が多い。

自転車の方が、一人だし、自由が利くし、クールダウンにもなる。

成人の場合

手先が不器用なため、細かい作業が難しい場合があり、それぞれの能力に応じた仕事を選択する必要がある。

自閉スペクトラム症の症状②－ 3

成人になってから、不適応反応などがみられたとしても、

① 元来の障害の症状が課題となっている場合

② 2次障害の方が問題となっている場合

がある。

2次障害

対人不信

対人恐怖

・ 集団恐怖

過敏性の亢進

・ イジメ、虐待

・ 理解してもらえない体験

など、不快な体験が続いたり、それに対して適切な対応がされない体験が続くと、元来の障がいとは別に、さまざまな2次障害が残ることがあります。この2次障害の方が、生活のしづらさの中心になっていくこともあります。

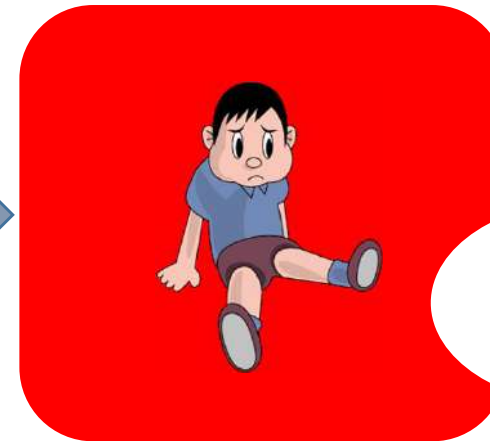
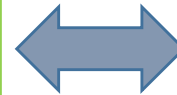


構造化は、なぜ必要？

安心できる環境を作ることが重要

周囲が作ったスケジュールでは、本人には全体像が見えない。本人が納得しているかどうか重要。

構造化することによって、本人が安心できているのか？

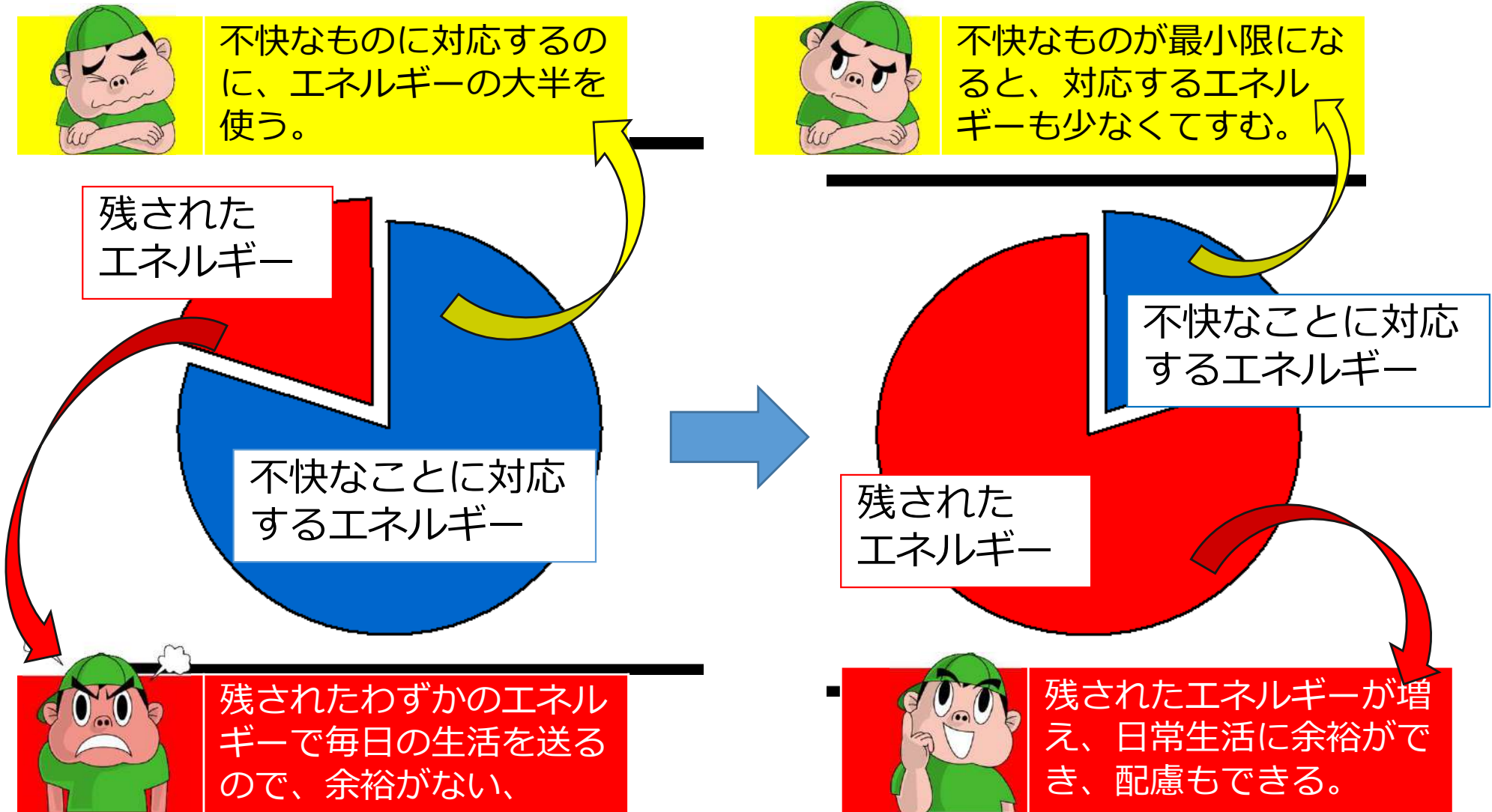


訓練？

外での生活は、想定外のことが起きることへの不安が高いために、構造化をすることによって、安心感を持たせることができる。

一方で、**自宅では**、想定外のこと（いきなり来客がある、絶えず家族からの叱責があるなど）が起きない環境なら、むしろ自分のペースでのんびりとさせておく方が、回復が早い。無理に、自宅での生活をスケジュール化する必要はあまりない。

本人にとって不快なもののうち、 避けられるものは避けた方がよい



時に、支援者からの告知の要請が

告知に関しては、

本人や家族に、発達障害の告知がされている場合
家族のみに、告知がされている場合
告知がされていない場合 がある。

時に、教育関係者や支援者から、

「本人や家族に、告知をして欲しい」という要請がある。

理由は、様々であるが、

- ① 本人に、適応が上手く出来ないのは、自分自身に課題があると気づかせたい。（他罰的で困る）
- ② 本人が、自分の障害を知ることによって、症状が改善するのではという期待。 など。

⇒告知をしたからと言って、特性は改善しない。工夫は出来る。しかし、工夫は、本人だけの力では難しいことが多々ある。

本人の課題だけにとらわれると、支援は上手くいかない。

0さん（20代男性）の場合 1 / 2

0さんは、大学卒業後、一般企業に就職しましたが、当初からミスが多く、報連相ができません。再三、上司から注意を受け、その時は「分かりました」と答えるのですが、改善は認められません。上司も、どのように対応してよいのか分からず、この状態が続くようであれば、解雇も視野に入れたと思っていた。

その状況を見て、スタッフの一人が、「自分はどういうことに知識がある。彼は、発達障害ではないか。診断してもらえば良いのでは」と意見をされました。上司も、ネットを調べたところ、確かに、彼の特性は発達障害かもしれないと感じ、早々に、0さんと呼び出し、0さんに受診を勧め、その場で病院に連絡をしてきました。

0さん（20代男性）の場合 2 / 2

病院に電話をするなり、上司は、「0さんが発達障害であるかどうかを診断してほしい」と訴え、その場で0さんにも電話を替わり、0さんも「自分も受診したいです」と話しました。

上司としては、もし0さんが発達障害だと診断されれば、その特性を他のスタッフにも理解してもらおうと思うとのことでした。

⇒仮に、発達障害と診断した場合、

会社に、その診断を伝えるのか（会社は、本人からの了解を得ているという）、あるいは、本人のみに伝えるのか（本人は、会社に伝えざるを得ない）。会社は、それをスタッフに伝え、理解してもらおう意向。

※診断の告知は、どうするのか。そもそも、どこに問題があったのか。

自閉スペクトラム症の告知

- ① 相談者は、障害の存在を想像していない。
- ② 相談者は、何らかの障害の存在を感じている。
- ③ 自閉スペクトラム症では無いかと疑っている。

告知が、
今の状況で必要か？

※本人や家族が、周囲の対応に疑問や不信を抱いている中での告知は、時に逆効果。まずは、環境調整をし、信頼関係の確立を。

家族への告知に至るまでの経緯

- 1 家族が、他の人とは違った特性（症状）の存在に気づいている。
（家族面接の中で、徐々に自覚をしていく）
- 2 その症状は、生まれ持ったものである。
- 3 その症状は、生活上、不都合を生じている。
- 4 しかし、その不都合は周囲の理解不足によるところが大きい。ゆえに、周囲の理解を得ることによって、不都合を軽減させることができる。
- 5 それだけでなく、その症状は、多くの利点を持っている。
- 6 本人や家族に提供される様々な支援や制度が存在する。

自閉スペクトラム症の告知 2

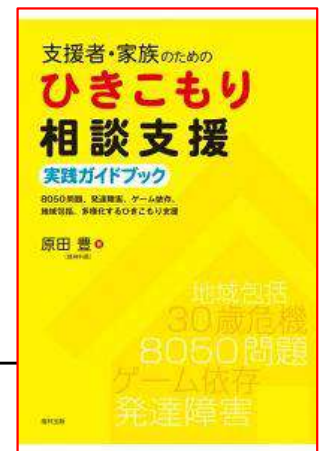
本人への告知に至るまでの経緯

- 1 告知に至る経過はさまざま、個人個人で異なる。（正解はない）
過去に、すでに何らかの発達障害の診断を受けている場合もある。
また、近年、ネットの情報が氾濫し、
自分自身が、発達障害ではないかと疑っている人もいる。
発達障害かどうかの診断を求められることもある。
この場合、
「発達障害である」と診断して欲しい場合と、
「発達障害ではない」と診断して欲しい場合がある。
診断をして、何を望んでいるかも知りたい（障害者雇用の利用など）
診断を望んでいるのは誰かも課題（周囲の方が診断を望むことも）
- 2 本人の自覚している特性を確認する。
複数のことは苦手だが、一つのことなら集中して仕事ができる。
新しいことは苦手だが、慣れたり教えてもらうときちゃんと仕事ができる。
- 3 特性を客観的に見るために、検査（WAISなど）をすることも。
- 4 発達障害の告知。特性に加え、支援や制度についても説明。

ありがとうございました。



鳥取県
「眠れてますか？睡眠キャンペーン」
キャラクター 「スーミン」



<参考>

原田豊「支援者・家族のためのひきこもり相談支援実践ガイドブック
～8050問題、発達障害、ゲーム依存、地域包括、多様化するひきこもり支援～」
(福村出版、2020/10/5)